

＜ もくじ ＞	
1. 2022年度連続講座第3回（11/12）の結果報告	1
2. 研究会合同イベント：シンポジウム開催のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2022年度連続講座第3回（11/12）の結果報告

◆第3回：「成年後見制度と老後にかかるお金について～ライフプランと終活を考えよう」報告

日 時：2022年11月12日（土） 14：00～16：00

講 師：宗像亜矢子（コスモス成年後見サポートセンター埼玉支部会員・行政書士）



成年後見制度は、介護保険制度と同じ2000年に施行されましたが、認知症高齢者が600万人台と推計されるのに、成年後見制度の利用者数は約23万人にとどまっています。その一方で、生涯未婚者（50歳時点で未婚の者）は2020年には男性の26.7%、女性の17.5%を占め、2030年には男性の3人に1人、女性の4人に1人になると予測されています。また、一人暮らしの65歳以上高齢者は約671万人となり、過去最高を更新しています。

高齢期に1人で暮らし、親族とも疎遠である場合には、入院や施設への入所の際に身元保証人を求められて困惑したり、モノにあふれた中で生活することで、周囲から体調悪化や判断能力低下を気づかれにくいということもあります。

頼れる親族が近くにいないとしても、たとえ認知症になったとしても、自分に代わって誰かに、生きていくのに必要な手続きや金銭管理をお願いすることで、自分らしく最期まで生きる方法として、成年後見制度があります。とくに、将来認知症になった時に備えて元気なうちに気に入った人と契約しておく、「任意後見契約等（移行型）」について、目的、契約の中身、利用における注意点、費用、利用方法等について詳しく説明しました。さらに、自らが成年後見人を務めた事例に基づいて、制度の利用が一人暮らし高齢者の生活の安心と安全を守るうえで大きな役割を果たすことを示しました。

最後に、老後に必要とされる資金について説明し、不安のない老後生活のためには、予めライフプランを作成しておくことの必要性を強調しました。（宗像亜矢子 記）

◆当日参加者のアンケート結果からいくつかのご意見をご紹介します。

- * 一人娘として両親を介護し、見送り、相続その他、種々経験してきましたが、自分自身のことも視野にいれておかねばならないと実感いたしました。ライフプラン表、なかなかインパクトがありました。（会員 60歳代 女性）
- * 受講前の私は、この制度の対象者は「（認知症などにより）現在、判断力を欠く状態にある人」と認識していました。ところが、お話を伺ううち、それは誤った認識だとわかりました。即ち、見聞きした法定後見のイメージを、そのまま成年後見の全体像と捉えてしまっていたのです。大前提であるこの点の認識を改められたことは、非常に大きな収穫でした。（会員 50歳代 女性）
- * 老後に必要なお金のことが具体的にイメージできてよかったです。わかりやすい解説でとても参考になりました。（会員 60歳代 女性）
- * 宗像先生のお話の中でご自分が経験された具体例が参考になりました。（会員 80歳代 男性）
- * ・任意後見できることできないこと（頼めること頼めないこと）。・費用の例示（よくわからなかった）。・任意後見契約と死後事務委任内容が具体的にまとめておられる所。（会員 80歳代 男性）

2. 第7回 研究会合同イベント：シンポジウム開催のお知らせ

「長期計画検討委員会」での検討を経て当学会の新しい方向を示すべく、「研究会合同イベント」が今年度は新研究会発足を目指して開催されることとなりました。

■ 日 時：2023年3月25日（土） 14：00～16：00

■ 場 所：未定

■ テーマ：「人生の第三期に広がる世界～新しいキャリアへの挑戦～」

■ 基調講演（予定）：治田友香氏（関内イノベーションイニシャティブ株式会社 社長）

※ 詳細は次号でお知らせします。ご期待ください。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第83回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年12月22日（木） 15：00～18：00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7 共同研究室

3) テーマ：「政府の借金は返さなくてはいけないか」

4) 発表者：碓 正義

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

(2) 第28回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2022年12月24日（土） 17：00～20：00

2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201

3) 発表者：鈴木 真澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症と任意後見制度

びしょうざ
劇団「B笑座」第14回。

「認知症とともに生きる」です。クリスマス会も兼ねています。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

※ お問い合わせは、鈴木 真澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

(3) 第39回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年1月10日（火） 17：30～19：30 Zoom 開催

2) テーマ1、「2023年の抱負」と「新年に思うこと」3分間スピーチ。

テーマ2、「ゴーストライターの仕事ってどんなもの」：複数の雑誌編集長を歴任され、現在は大学で「メディア論」や「日本語リテラシー」を教えておられる、研究会メンバー柴本淑子さんが語る、なかなか知ることのできないそのお仕事とは？

ご連絡ご質問は、中村昌子（nakamurayoshiko6@gmail.com）までお願いします。

新参加者大歓迎！です。

(4) 第38回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年1月18日（水） 15：00～17：00

2) 場 所：上野区民館（台東区池之端1-1-12）

3) 概 要：俱進会助成事業 インタビューデータの分析

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(5) 第64回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年1月22日（日） 18：00～20：00

2) 開催方法：Zoomによるオンライン開催

3) 報告者：青山陽子（成蹊大学ほか非常勤講師、当学会会員）

米田衆介（明神下診療所院長）

- 4) テーマ：地域社会と防災：支援の手が届きやすくするための地域ネットワークづくりと災害時の障害者支援について

※ 参加ご希望の場合は、長田まで事前にご連絡ください (pfb00052@nifty.com)

(6) 第147回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年1月25日（水） 18:00～20:00
 - 2) 報告者：石崎浩二 三菱UFJ信託銀行 エグゼクティブアドバイザー
 - 3) テーマ：「銀行員が本音で語るお金の哲学～増やすだけじゃない、もっと大切なことがある～」
 - 4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

4. 研究会からの概要報告

(1) 第36回「社会情報」研究会開催の報告（再掲）

- 1) 日 時：2022年11月9日（水） 15:00～17:00
- 2) 場 所：上野区民館
- 3) テーマ：俱進会調査研究 インタビューデータの整理方法と作業分担決め
 - ・分析作業について
 - ①テーマごとに、発言を20名分 それぞれ担当部分をまとめる。
 - ②傾向を出してコメントをつける。次回研究会（12月15日）に提出。
 - ・フリーディスカッション（まとめの方向性）パターン類型（案）について富田さんが説明
パソコンの業務使用歴が現在のスマホ利用に影響を与えていることが読み取れそう。
現在のスマホ利用を4類型に分ける案を提示。 (森 記)

(2) 第82回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時：2022年11月24日（木） 15:00～17:50
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：エイジングとコミュニティの在り方 — 『コミュニティ学のススメ』他を読んで — その抜粋と感想
- 4) 発表者：大下 勝巳

発表は参加者に事前に送付したレポートに沿って行われた。4項目にまとめられたレポートの第1項目は、テーマ設定の背景として、①2025年問題 ②一人暮らしと認知症 ③医療・介護費の負担増加の3点を上げられた。第2項目は、エイジング～大衆長寿時代を生き抜くことと題して ①四つの次元があること。 ②大衆長寿時代と呼ぶことについては2つのポイントがあること。 第3項目は、コミュニティ「ところ定まれば、こころ定まる」についての基本コンセプトについての考え方について。第4項目は、大衆長寿時代の黄信号～団塊世代のエイジングとコミュニティ～の問題点について語られた。そして、「人生はコミュニティの中にしかない」～『ところ定まる』と『こころ定まる』との間にできている隙間をいかにつなぐかということに尽きる」⇒ここに、コミュニティの機能と役割があると考えると締め括られた。

発表の後、安田コーディネーターの進行で、意見交換が交わされたが、発言されたいくつかキーワードを列記すると、コミュニティ学について、団塊世代とコミュニティの関わりについて、望ましいコミュニティについて、世間とコミュニティについてなどそれぞれ出席者から熱く語られた。

濱口座長はコメントとして、①社会学とコミュニティ学について ②ゲメインシャフトとゲゼルシャフトについて ③AGIL 図式について ④『赤毛のアン』の人間関係について ⑤「大衆長寿時代」という表現の経緯などについての見解を詳しく解説された。 (島村 記)

(3) 「災害と地域社会」研究会の共催イベント開催の報告

- 1) 日 時：2022年11月26日（土） 13:30~16:00
- 2) 会場、開催方法：オンライン開催（Zoom）
- 3) テーマ：「わすれな草：東日本大震災遺族の記憶を記録し伝えることについて《当事者》と語り合う」
- 4) 講演・座談会：

■基調講演：藤原規衣（元岩手朝日テレビ記者・アナウンサー）

■座談会登壇者：藤原規衣、倉堀康（岩手県大槌町の震災遺族）、野坂紀子（同左）、野坂真

- 5) 主 催：早稲田大学総合人文科学研究センター「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究」部門

共 催：地域社会と危機管理研究所、シニア社会学会「災害と地域社会」研究会、早稲田大学総合人文科学研究センター「知の蓄積と活用にむけた方法論的研究」部門、大槌町安渡町内会

《概要》「災害と地域社会」研究会は共催でしたが、主催者の野坂真さんは当研究会のメンバーであるので、研究会報告とさせていただきます。

参加者は全国から海外に及び130名以上。まず、司会者の野坂さんから趣旨説明がありました。建物の復興は進んでいるが「こころの復興」はなかなか簡単には進まない。そこで、立ち上がったのが「こころの復興」に役立てようと「遺族の記憶を記録し伝える」《生きた証》プロジェクトであること、その活動を担った当事者同士がこのプロジェクトの意義や役割について語り合うことで、さらに全体の復興に役立てたいという主旨について説明されました。

そのあと基調講演を行ったのが、その活動取材してテレビドキュメンタリー番組を制作したメンバーの一人であるテレビアナウンサー（現在はフリー）藤原規衣さんが、取材を始めて一週間で急に声が出なくなる経験をしたこと、しかしそれを乗り越えて番組を制作する過程で、心と目にしたある被災者の大事にしている刺繍から「わすれな草」というタイトルを思いついたこと、このプロジェクトが当事者の「心の復興」にとって意義のあるものであることを話されました。

それを受けて、藤原さん、大槌町役場職員で被災遺族でもある倉堀康さん、被災した両親を亡くされ野坂紀子さんと、司会の野坂真さんによる対談に移りました。そこでテーマになったのは、被災者が自分の周りの人との関係で抱えるジレンマを、「つなみてんでんこ」（まず自分の命を守ることを最優先せよ）という教訓を引き合いに出して議論され、それぞれの身の回りには障害を持った人や子供があり一概にそれを強調することはできないこと、命は助かってもそのあとの後悔や悲しみをいやすための支援体制が必要であることなどが話されました。また、そのような過程そのものは生き残った人は誰にも話したくないまま生活を送っていることなどが指摘されました。また、この活動は人々が日常を取り戻していく中で、被災で負った「心の傷」や、避難所での生活の様子が語られなくなり顧みられなくなることを司会者の野坂さんは「風化」という言葉表現してよいのかと問いかけました。野坂紀子さんは、このような被災者の傾向は自然のことなので、「風化」というよりその過程を記録や遺物の継承を通じてありのまま把握することが、これからも「心の傷の軽減のためのカウンセリング」その他周りの支援体制を継続するために必要ではないかと指摘されました。倉堀さんも野坂夫妻とともに、遺族の一人として被災者個人の記録作成に携わる「大地震を語り継ぐ会」（岩手大学麦倉研究室）に参加しながら、「心の復興」プロジェクトを続けておられます。また藤原さんはフロリスト事業を通じて側面からの支援を続けておられます。2022年現在、『災害遺族の心の復興過程記録集 わすれな草《第1集》』が発行され、続刊を作成中とのことです。

会場では大槌町自治会の人からも、被災地の抱える問題やこのプロジェクトの意義についてのコメントがあり、予定された時間がまたたく間に過ぎてしまいました。

翌11月27日から12月11日まで、震災遺族の聞き書き記録集『わすれな草』動画版が参加申し込み者に公開されましたが、ここでは省略いたします。（長田 記）

(4) 第27回 「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催の報告

- 1) 日 時：2022年11月26日（土）17:00~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201

3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員 (YNS やまぶき任意後見サポート会)

4) テーマ：認知症を楽しく過ごすには

ひょうざ
劇団「B笑座」第13回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

(5) 第146回「社会保障」研究会開催の報告

1) 日 時：2022年11月30日(水) 18:00~20:20

2) 報告者：森 義博(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長)

3) テーマ：人生の“真の長さ”と、それを踏まえた老後資金準備

4) 参加者：19名

日本の人口は2008年の1.28億人をピークに減少に転じた。一方、高齢化率は今世紀後半も38%程度での高止まりが予測される(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2017年4月))。日本人の平均寿命は男性が81.47年、女性は87.57年(2021年、以下同じ)に達し、今後さらに延伸すると予測される。人生設計を考える際には、平均寿命ではなく現年齢の平均余命に基づくことが最低限必要だが、報告者は、生存率を意識することが望ましいと考える。例えば65歳を起点とすると、男性の平均余命(19.85年=84.85歳)時の生存率は約53%、女性(24.73年=89.73歳)は約56%。生存率が50%となる年齢は男性が85歳、女性は91歳、25%は男性91歳、女性96歳。25%はけして低くない確率だと考える。死亡年齢を5歳階級でみると、女性の最多は「90~94歳」。90歳以上が52%を占めており、この割合は過去21年間で13ポイントも上昇。一方、男性の最多は「85~89歳」。

ダイヤ財団が50歳代に「想定寿命」(人生設計として想定する自身の寿命)を質問したところ、男女とも1/3が「80歳」と回答。平均は男性が80.3歳、女性は80.8歳。女性は平均寿命さえ約7年下回っており、超長寿への備えが心配される。

2019年の金融審議会市場WGの報告以降、「65歳時に2000万円必要」が独り歩きしている感があるが、ストックの取り崩しは長寿リスクを伴うため、フローの収入を充実させたい。方法としては、公的年金の繰下げ受給、生命保険会社の終身年金(昨今取扱う会社は少ない)加入、iDeCoや企業型DCでの終身年金の選択、退職金・企業年金の年金受取りなどが考えられる。さらに、長く働くことも有効。70歳まで厚生年金に加入して働くことが理想だが、生きがい就労(シルバー人材センター等)による収入も超低金利下では貴重。フローの収入をできるだけ厚くかつ長くすることが安心につながる。

報告後の質疑では、「2000万円問題」の元となった報告書の狙いや金額の算定根拠、「健康寿命」の定義や算出方法の妥当性、老後資金の準備方法など、活発に意見交換が行われた。また、新型コロナによる出生動向基本調査の延期等の影響で「日本の将来推計人口」の最新版の発表が延期されている事情の説明があった。(森 義博 記)

(6) 第38回「ライフプロデュース」研究会開催の報告

1) 日 時：2022年12月7日 17:30~19:30 Zoom開催

2) ファシリテーター：若井泰樹

3) テーマ：「アドラー心理学」よりの学び & Web忘年会

冒頭、恒例の「今年の漢字(一文字)」を各自コメントも添えて発表。

「災」、「心」、「挑」、「虹」、「学」、「謝」、「読」、「老」、「転」、今年一年を振り返り、それぞれの経験談、思いを語り、大変興味深かった。

テーマ 「アドラー心理学」よりの学び ⇒フリーディスカッション

最初に、進行役より「5つのポイント」を紹介、①「いま、ここ」を大切に生きる。(過去、未来に支配されない生き方)②「ありのままの自分」の受容。(等身大の生き方)③「承認欲求の自制」(「他者の期待」を満たすための生き方はやめよ!)④「自分を変えられるが、他者を変えることはできない。」⑤「ほんとうの自由とは?」⇒「他者から嫌われること」を怖れない。~以後、フリーディスカッションへ~

・アドラーの説は、どれももっとも！と思うが、現実に行うのはなかなか困難。

・「心理学」も様々なアプローチがある。宗教と心理学とは共通するものもある。・定年後、アドラーの考え方に背中を押してもらった経験がある。(参考) ショーペンハウアーの名言、「運命がカードを混ぜ、われわれが勝負する」。・日本人は、「同調圧力」が強く、「自分の判断」と「共同体感覚」との兼ね合いが難しい。・アドラーは「他者を褒めてはいけない」と言うが、「賞罰教育」という観点からすると、どう捉えてよいのか？と、「問題提起」があり、このテーマでしばらく議論が盛り上がった。・学校でも会社でも、「ほめること」はとても重要であると感じている。・「承認」と「認める」とは違うのか？・「ほめる」⇒「(あなたの意見を) 尊重する」という捉え方が良いのでは？・ずっと「褒められて育った人」が、将来「行き詰まる」ことも多い。・最近、日本でもようやく「個性」を認め合い、尊重する風土が生まれていると感じる。
(若井泰樹 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

< 会員情報変更時のご連絡のお願い >

コロナ禍中、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報(氏名・住所・eメールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。

当面、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

< 2023年1月 JAAS News の発行日 >

次回 JAAS News 第281号の発行日は、2023年1月18日(水)です。原稿をお寄せ下さる方は、1月11日(水)までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>